

令和4年度
第2回柏市立図書館協議会

資料

令和4年12月15日(木)

柏市立図書館

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 令和4年度主要事業報告
- 4 協議
- 5 その他
- 6 閉会

目 次

1	柏市立図書館協議会委員名簿	1
2	柏市教育委員会 出席職員名簿	2
3	令和4年度主要事業報告	3
4	協議	9

1. 柏市立図書館協議会委員名簿

令和4年12月15日現在

番号	選出区分	氏名	職等	役職
1	学校教育関係者	いわなが あきこ 岩永 朗子	柏市立土中学校長	
2	〃	きさま ひろみ 笹間 ひろみ	柏市学校図書館コーディネーター	
3	社会教育関係者	はむら たいが 羽村 太雅	一般社団法人サイエンスエデュケーションラボ理事長	
4	〃	みやじま きりえ 宮島 衣瑛	一般社団法人 CoderDojo Japan 理事	
5	〃	ふじた としこ 藤田 とし子	特定非営利活動法人柏ソーシャルキャピタル協会理事長	
6	〃	たかはし ふみなり 高橋 史成	社会福祉法人柏市社会福祉協議会 地域福祉課長	
7	家庭教育の向上に資する活動を行う者	よしはら みゆ 吉原 美優	K I K A I (カシワワカモノプロジェクト) メンバー	
8	学識経験者	みうら あきひろ 三浦 章宏	元千葉県立西部図書館長	会長
9	〃	たんま やすひと 丹間 康仁	千葉大学准教授	副会長
10	〃	ささき ひでひこ 佐々木 秀彦	公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 企画部 企画課長	
11	その他	はやかわ さきこ 早川 沙希子	公募委員	

(敬称略)

任期：令和3年6月1日から令和5年5月31日まで

2. 柏市教育委員会 出席職員名簿

番号	所 属	職 名	氏 名
1	生涯学習部	部 長	宮島 浩二
2	図書館	館 長	坂口 園子
3	〃	統括リーダー	柳川 行秀
4	〃	副主幹	千田 雅之
5	〃	副主幹	芦澤 慎二
6	〃	主 査	大野 真奈
7	〃	主 査	大里 祥子
8	〃	主 任	深澤 彩香
9	生涯学習課	課 長	沖本 雅樹
10	中央公民館	館 長	相川 章代
11	文化課	課 長	田口 大

3. 令和4年度主要事業報告

1 地域情報拠点化事業

(1) 永楽台分館「只見町情報コーナー」企画展示（10月）

企画展示「祝・JR只見線全線運転再開」を行いました。平成23年7月の豪雨被害により一部区間の運休が続いていた只見線が、10月に全線運転を再開しました。永楽台分館では、JR只見線に関連する新聞記事やポスターを展示し、全線運転再開を地域の皆さまとお祝いしました。

また、10月に開催された「永楽台地域ふるさと協議会設立40周年及び只見町との交流40周年記念式典」に招待していただき、地域とのつながりを深めてまいりました。

(2) 増尾町会民話の里づくりプロジェクト

令和3年度に増尾町会で、地域交流の促進をはかり、町会員の地域への愛着を深めることを目的に「民話の里づくり」プロジェクトが発足しました。町会内に古くから言い伝えられた「民話」の文化的価値を伝承し、その普及に向けて、「民話」に登場する場所の周辺を含めたウォーキングコースや散策コースを提案し、マップの作成や看板の設置を進めています。

9月のプロジェクトチームメンバーとの意見交換会では、図書館から、地域情報拠点化事業と、資料面からのサポートについて説明し、早速、地域に関するレファレンスをいただきました。

また、10月には、プロジェクトチームが主催するマイクロツーリズムとウォーキングに参加し、土小学校の児童や増尾町会の参加者と一緒に、手作りの増尾民話の里めぐりマップを手元に、設置された看板や石碑などを見て回りながら増尾周辺を散策しました。

今後も資料面から支援を行い、作成された資料や活動の記録を図書館資料として保存し、未来に引き継いでいくとともに、地域の方と共有していきます。

なお、今回の地域との連携は、令和3年6月に増尾分館に設置した地域情報コーナーである「高島野十郎コーナー」や、昨年度の「ふるさと柏のむかしばなしマップ」の巡回展示もきっかけとなっており、地域情報拠点化事業による成果のひとつと考えています。



(3) 学制150周年記念歴史写真展「柏の学校Ⅰ 小学校ができた！」（本館，増尾，田中，布施，沼南）

日本で最初の学校制度「学制」の公布から150年を記念した、文化課主催の写真展「柏の学校Ⅰ 小学校ができた！」が、令和4年6月にパレット柏市民ギャラリーで開催されました。

図書館では、文化課と連携し、令和4年10月4日から令和5年1月31日まで対象となった学校近くの図書館分館に分けて展示を行います。地域の皆さまと、明治初期から戦中の校舎や授業風景，児童の様子を古写真から振り返ります。



(4) 学校への情報提供を前提としたデジタル教材の作成

現在、図書館では、学校図書館と連携し、授業に必要な資料の提供を行っています。しかし、提供する資料は一般に流通している書籍が中心となっており、地域学習に必要な、地域に関する資料・情報を提供できていないことが課題であると考えています。

また、学校現場では、児童生徒に配布された端末を使って調べ学習の成果物を作成するアウトプット型の学習を行っています。このため今後は、紙の資料に加えて、写真や地図等のデジタルデータも必要とされるのではないかと考えています。

以上の問題意識のもと、美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連※）と協力して手賀沼をテーマとしたデジタル教材作成の取組を進めているところです。図書館としては、著作権や利用に関する意思表示の方法等について助言を行い、関係部署と調整して、授業で活用できる形で取りまとめたいと考えています。

※手賀沼流域で活動している市民団体の連絡会

2 学校支援・連携事業

(1) マンデーライブラリーラボ

夏休み期間中の図書館休館日となる令和4年8月1日（月）に小学生を対象として、科学をテーマとした次の講座を開催しました。講座の中で図書館資料を参照したり、関連資料の展示を行いました。

○「実験！実演！科学の“キホン”」

講師：手作り科学館 E x e d r a 副館長 宮本 千尋 氏

参加者：17名

○「チリメンモンスターを探そう！」

講師：千葉県立沼南高等学校科学部の生徒6名

参加者：14名

(2) 夏休み調べもの相談カウンター

夏休みの期間中の令和4年7月26日から7月31日までと、8月24日から8月28日まで、本館のこどものへやにレファレンスカウンターを設置しました。昨年度までは図書館職員のみで行っていましたが、今年度は学校図書館指導員とペアとなり、子どもからの相談に対応しました。これにより現場レベルでの知識・経験を共有することができました。

○レファレンス受付件数 36件

(3) おびコレ2022

子ども司書がおすすめ本にオリジナルの帯をつける『おびコレ2022』の展示を、令和4年7月26日から9月2日まで本館で、その後、9月27日から10月10日まで学校近くの分館で実施し、33校から183作品の参加がありました。展示の後、帯付きで貸出も行いました。

(4) 市内中学生ビブリオバトル

市内公立中学校の代表者によるビブリオバトルを開催しました。4日間の予選はオンラインで開催し、決勝戦は、10月22日にラコルタ柏3階オープンスペースで行いました。なお、決勝の様子をZoomで配信しました。

○参加者

16校から16名

○チャンプ本賞及び特別賞

柏市立柏第五中学校 3年 秋元 萌花さん発表 『匿名』柿原 朋哉／著

○準チャンプ本賞

柏市立柏第三中学校 2年 水田 謙壮さん発表 『巖嵐』吉村 昭／著

○決勝戦観覧者数（45名）

会場：35名 Zoom 視聴者数：10名

3 その他連携事業

外部団体が企画する様々なイベントに協力することは、図書館や本との新たな接点を生むことにつながると考え、積極的に外部団体の連携を行います。

(1) 第14回ストリートパーティー

【主催：一般社団法人柏アーバンデザインセンター（UDC2）】

令和4年9月4日（日）にハウディモール（柏駅東口駅前通り）で開催されたイベントに参加して絵本の読み聞かせを行いました。



(2) 柏の葉マルシェコロール

【主催：柏の葉マルシェコロール実行委員会（柏の葉市民有志等によって構成），協力：一般社団法人柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）】

令和4年11月3日（木・祝）に柏の葉キャンパス駅前で開催されたイベントに参加しました。主催者企画の「リトルフリーライブラリー」コーナーで絵本の読み聞かせや，本の展示を行いました。



(3) かしわ太陽系ウォーク

【主催：一般社団法人柏アーバンデザインセンター（UDC2），企画運営：手作り科学館 Exedra】

令和4年11月3日（木）から12月25日（日）まで柏駅周辺の小売店，飲食店，大型商業施設の各施設に展示スペースを設け，これらを結ぶスタンプラリーにより太陽系のスケール感を体験する『かしわ太陽系ウォーク』が開催中です。図書館は展示に使う関連図書の貸出を行いました。

(4) のぞいてみよう！みんなの本棚

【主催：kamon かしわインフォメーションセンター】

令和4年11月20日（日）から12月25日（日）までセンター内で『のぞいてみよう！みんなの本棚』を開催しており，市内で活躍する方から推薦された多様な本が展示されています。図書館は展示に使う本の貸出を行いました。

4 電子図書館サービスの開始

○開始日

令和5年1月24日（火）午後1時

○導入目的

- ・ 利便性の向上 → 新たな利用者層へのサービス提供
- ・ 視覚障害者等へのサービス充実 → 文字の拡大・反転や読み上げ機能有
- ・ 独自デジタル資料の提供 → 地域資料，行政資料

○内容

- ・ タイトル数：約1万タイトル
- ・ 対象者：市内在住，在勤，在学の方
- ・ 貸出冊数：2冊まで（貸出期間は2週間以内）

○周知

広報紙・図書館ホームページへの掲載，図書館 Twitter への投稿
ポスターの掲示，チラシ・しおりの配布
学校図書館だよりへの掲載

5 柏市子ども読書活動推進計画の改訂

(1) 概要

基本目標 1 読書の楽しさを経験する

基本方針 1 子どもの成育段階に応じて読書に親しむ「機会の創出」

- 1 乳幼児期における読書活動の推進
- 2 小・中学生期における読書活動の推進
- 3 高校生期における読書活動の推進

基本目標 2 読書の大切さへの理解を深める

基本方針 2 子どもの読書活動の大切さに関する「普及・啓発」

- 普及・啓発の推進

基本目標 3 大人が子どもの読書を支援する

基本方針 3 すべての子どもがいつでもどこでも本に親しむための「読書環境の整備」

- 1 家庭・地域における読書環境の整備・充実
- 2 図書館における読書環境の整備・充実
- 3 学校における読書環境の整備・充実
- 4 幼稚園・保育園等における読書環境の整備・充実

基本方針 4 「連携と協働」による子どもの読書活動の推進

- 1 市立図書館と学校図書館の連携
- 2 市立図書館と子育て関係機関の連携，支援
- 3 ボランティアの育成，支援，連携・協働

◎子ども読書活動推進計画とは

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「千葉県子どもの読書活動推進計画」を基本として、本市における状況を踏まえた、子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画です。

第四次計画の期間は令和5年度からおおむね5年間です。

(2) 第四次計画の改訂のポイント

ア 前計画の取組みの継続

柏市では、平成19年3月に「柏市子ども読書活動推進計画」を策定し、平成24年6月に同計画（第二次）、平成29年3月に同計画（第三次）を策定し、家庭、地域、学校、図書館等が連携・協働しながら、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。第四次計画でも、子どもの読書の現状や国・県の動向を踏まえ、第三次計画を引継ぎ、柏市のすべての子どもが、あらゆる機会あらゆる場所において、読書活動を行うことができる環境を整備していきます。

イ 図書館における子育て支援という視点（追加）

平成27年4月に開始された「子ども・子育て支援新制度」では、これまで年金、医療、介護に用いられてきた財源を子育ての分野にも充当し、社会保障の大きな枠組みの中で、子どもと子育てについても支援していこうとする仕組みを示しています。社会全体で、子どもや家庭を支援していくことが求められる中で、図書館としても、地域や学校等と連携し、社会全体が一体となって子どもの読書活動を支援することで、未来を担う子どもたちが幸せに生きる力を身に付けることを支えています。

ウ デジタル化の進展という視点（追加）

電子書籍やネットニュース、メール、SNSなどの普及により、子どもたちの読書環境、読む対象や情報を収集する方法が変化している中、図書館では、令和5年1月、電子図書館サービスを導入します。子ども向け電子書籍を充実させ、普段図書館を利用しない子どもたちへの利用促進を図ります。

エ 読書バリアフリーへの対応（追加）

令和元年6月、読書バリアフリー法が施行され、読むことに困難さを抱える子どもたちに対する読書活動支援の充実が求められています。障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるよう、図書館では、音声読み上げや拡大表示などに対応したアクセシブルな電子書籍の充実を図り、読書バリアフリーに関する情報収集、ニーズの把握に努め、多様な資料の充実と提供を推進します。

オ その他（追加）

- ・ 図書館での読み聞かせに、ルールやマナーを身に付ける効果も期待されること、を追加
- ・ 学校図書館への支援について、これまでの一般に流通する書籍の提供に加え、地域学習で活用できる資料を提供するため、地域資料の収集に努めること、を追加

4. 協議

「柏市図書館のあり方」の考え方を市民と共有するために

(1) 問題意識と背景

「柏市図書館のあり方（平成31年2月）」を策定後、貸出機能にとどまらない図書館の可能性を市民と共に考え、具現化していくために、令和2年2月16日にパレット柏オープンスペースで慶應義塾大学文学部准教授の福島幸宏先生を講師に迎え、地域資料をテーマに第1回「交流型講演会」を開催した。

さらに、市民団体「かしわ図書館メイカーズ」と共催で、令和2年3月22日に京都橘大教授で瀬戸内市民図書館前館長の嶋田学先生を講師に迎え、図書館の役割をテーマに2回目の「交流型講演会」を企画した。

しかし、本イベントは新型コロナウイルス感染症の第一波により中止を余儀なくされ、その後もコロナ禍が続く中で、市民を巻き込んで「柏市図書館のあり方」で示した図書館像について、共有する機会や考える機会、具体の事業を行う機会を作ることができずに現在に至っている。

ウイズコロナ時代になりつつある今、このことに再度チャレンジしたい。

【令和3年度第3回協議会でいただいたご意見】

■「市の問題意識と方向性」について

- ・市民は図書館の役割・機能（地域資料を収集・整理・保存・提供）を知り、自らそれに参加するという「仕掛け」をつくる必要がある
- ・とくに「資料等の散逸について危機感」は、市民全体で共有すべき課題

【令和4年度第1回協議会でいただいたご意見】

■テーマ「地域情報拠点化事業への理解者・応援者を増やすために」

- ・地域を愛する人は顔が見えるつながりを大切にしている
- ・人とのつながりは、コロナ禍で隔たりがあった
- ・まずはイベントから始めると関心がある人が掘り起こされる。イベントからだんだん日常に
- ・図書館は市民が一緒になって作っていくものという認識になっていくとよい
- ・キーワードは居場所

などこれまでの流れを踏まえて・・・

(2) 事業提案

① 「柏市図書館のあり方」の考え方を市民と「共有」する【学び】

貸出機能が多くの市民にとっての図書館イメージとなっている。地域資料のアーカイブ機能や図書館資料を活用した地域づくり・人づくりへの貢献、交流・居場所などの重要機能があることを市民と共有し、自分事として（当事者意識を持って）図書館と関わることを目指す市民と協働するきっかけを作りたい。

② 市民参加型の事業を実施したい【創造】

増尾や永楽台など一部の地域で実践が始まってはいるが、コロナ禍の中で市民協働の動きが止まってしまったため、広い展開ができていない（増尾や永楽台では地域住民との協働が動き始めている。今後は全市的な協働事業にもチャレンジしたい）。

そこで、「あり方」の考え方を具現化する事業を、市民参加で企画を立案し実施することを通じて、未来の図書館像を共有したい。また、実際に事業を行うことで、あらためて図書館の役割や必要な機能を考える機会とするとともに、「柏市図書館のあり方」から漏れているテーマをすくい上げたい。

(3) ご意見やご提案を伺いたいこと

ア 図書館資料や地域にある資料を市民が活用し、成果を地域に還していくことが大切

イ まちづくりや地域づくりに関心がある人を巻き込むことが必要で、キーパーソンの存在も重要

ウ 行政はサービスの提供者、市民はサービスの受け手というイメージを変えてもらうことが必要

エ 事業提案①の「自分事とする（当事者意識を持つ）」ことは相当にハードルが高いと感じている。しかし、②の市民参加型の事業を実際に行う上では、これを乗り越える必要があると考える

◎市民に①これからの柏市の図書館にはどのような機能が必要かを考えてもらうには、②「自分事」として認識してもらうためには、どのような仕掛け（工夫）が考えられるか、アイデアをいただきたい

(4) 参考

ア 柏市公共施設等総合管理計画「個別施設再編方針」(平成31年3月策定)

- 平成30年度末に、今後の図書館政策の方針となる「柏市図書館のあり方」の策定を予定している。このため、以下の方針(図書館本館については、建物の長寿命化を図るため『改修』を行う。)については、このあり方の策定後に再度検討を行う。(P. 35)

イ 市議会令和4年第3回定例会(9月)での図書館関連の市長答弁について

質問要旨	将来的な図書館像について <ul style="list-style-type: none">公共図書館は、様々な自治体で交流や賑わいのキーテナントとして駅前整備や再開発などにおいて活用される事例が多い柏市では、平成30年度末に「柏市図書館のあり方」をまとめたが、市民に十分周知されているとは言い難い施設整備に関しては現時点までに踏み込んだ議論もされておらず、図書館に対する柏市のビジョンが見えない老朽化したハードのリニューアルと柏市に合った図書館のあり方の両面について、市民を巻き込んだ積極的な議論を喚起すべき時期に差し掛かっている。市長の考えを示してほしい
答弁要旨 (市長)	<ul style="list-style-type: none">柏市では、平成30年度末に策定した「柏市図書館のあり方」を基本方針に据え、取り組んできた現状、図書館は単に本を貸し出すだけの場所ではなく、「学び」や「交流」など何らかの形で地域づくりに関わっていくことは、これからの図書館の役割と認識している柏市公共施設等総合管理計画「個別施設再編方針」では、図書館本館は改修となっているが、<u>「あり方」策定後に再度検討することになっていた</u>「あり方」策定から4年が経過しようとしていることから、<u>単にハードのリニューアルだけの議論ではなく、今後、将来的な図書館の方向性について、まずは、図書館協議会などで調査研究していくことが望ましいと考えている</u>